

Sustainable Kyushu

さすてなぶる九州

有限会社 友田商会

代表取締役社長

友田 浩一 氏

取引店 / 福岡銀行 博多駅東支店



本社前、友田浩一社長

幼児から高齢者まで笑顔を届けたい。 シャボン玉をつくり続けて65年。

すべて国内産

安全に遊べるシャボン玉にこだわる

当社の創業者は祖父・友田直正なほまさ。終戦を台湾で迎えた祖父が帰国後になかなか定職につけない中で、1956年のある日、仕事で行った姪浜（福岡市西区）から徒歩で帰宅中に、無数のシャボン玉が飛んでいるところに出会いました。懐かしさのあまり、元をたどっていくと橋の上に20人ほどの子どもたちが集まって、その中心にシャボン玉を売っている人がいました。子どもたちが喜んでいる姿を見て「これだ!」と思ったのが友田商会創業のきっかけとなりました。1972年には、現在の有限会社友田商会を設立。現在、シャボン玉を国内で製造しているのは4社ほどで、研究開発を含めシャボン玉液の調査からすべてを手掛けているメーカーは、当社ぐらいです。

当社のこだわりは、例えばシャボン玉の容器は福岡県の工場に依頼しているなど、材料の

すべてが国内メーカーのものであることです。

何事にも100%の「安全」はありません、市場には海外製のシャボン玉も大量に存在しています。それらの製品も最低限の安全基準は満たされているとは思いますが、使用されている原材料等はわかりません。主に小さなお子さまたちが遊ぶものですから、できる限り安全なものを提供したいと考えてきました。

安全性を高めるために

業界全体で安全基準を設定

そこで1975年に、国内のメーカーが一致協力し、「日本シャボン玉安全協会」を設立しました。この協会は当時、製造を行っていた9社が加盟し、それまでメーカーごとに実施していた検査では安全を証明できないとのことでした。シャボン玉液の安全基準を「界面活性剤濃度3%以内」「蛍光増白剤及び重金属を含まない」と決めました。同時に、幼児による誤飲

事故を想定し、「容器の容量」や「吹き具は吸引できない構造」などの安全基準を決めたのです。現在は、同協会と「財団法人日本文化用品安全試験所」の協議によって安全基準が決められており、STマークをはじめ、食品衛生法（※）等、安全確保のための検査を複数クリアしています。（※）小さなお子さまが口にすることもあるため、食品衛生法では玩具の種類や原材料ごとに規格を設け、有害物質の溶出基準などを定めている

実際に、「子どもが誤って飲み込んでしまっ
て泣いているが、大丈夫でしょうか」というお
問い合わせをいただきます。その際に当社が
申し上げているのは「苦さに驚いて泣かれてい
ると思います。シャボン玉液は界面活性剤の水
溶液で、その97%は水です。人体には影響がほ
ぼありません」と、お答えしています。ただし、
しばらくしても体調がすぐれない場合は病院
に連れていただくようお願いしています。

また、2013年には、より安全な製品を提
供したいとの思いで、無添加石けんベースの
シャボン玉液を北九州市に本社を置くシャボ
ン玉石けん株式会社と共同開発しました。現
在、界面活性剤不使用の「シャボンちゃんの
シャボン玉」として販売しています。

コロナ禍で通販が好調

学習効果や健康効果も期待

当社では、「人生において人は三度、シャボン玉を手にする」と考えています。はじめは自分が子どもの時、次は自分の子が生まれた時、そして三度目は孫ができた時です。シャボン玉でよく遊ぶのは3歳児ぐらいですが、実際に買うのは親世代。その親が、子どもが「欲しい」と言った時に、気軽に買ってあげられるものでありたいと、価格は100円から数百円程度に抑えてきました。販売をしているのは、大手ディスカウントストアや家電専門店などの量販店やコンビニエンスストア、100円均一ショップなどです。

コロナ禍で売り上げが伸びたのが、Amazonなどのネット通販でした。買い物や外遊びが制限され、「せめて子どもたちを近所の公園で遊ばせたい」と、通販で購入するご家庭が多くなったと感じています。

そのような傾向から、「シャボン玉」の持つ癒やしの効果について考えることがあります。キラキラと輝くシャボン玉を見ているだけでも、親子や友だちとのコミュニケーションが生まれます。シャボン玉が飛んでいく様子をよく

見ると、はじめは虹色だったものが青色、赤色、黄色と色が次第に変わっていく様子が分かるかと思えます。これはシャボン玉の厚みが徐々に薄くなつていき、光の屈折が変化するためだと考えられています。この変化を追うことは、子どもたちの「科学の目」を養うきっかけにもなるかと思えます。

また意外にも、シャボン玉を長く「吹く」という行為は、肺活量が少々必要となるため運動機能の改善にも繋がるのではないかと考えています。例えば、高齢者施設に入居される方々が童心に帰って、シャボン玉を吹くだけで、肺の力をつけるなどの思わぬ運動効果も期待しています。

開発力やアイデアをもって 新製品にチャレンジし続ける

当社の2代目社長を父が引き継ぎ、その中で私も小さな頃からシャボン玉工場の作業を手伝っていたことから、大学卒業後も自然とそのまま当社に入社しました。社長業を継いだのは2016年、私が32歳の時でした。シャボン玉の可能性をさらに広げ、年に最低でも一つは新製品を開発しようと、従業員みんな

アイデアを出し合っています。

定番以外の製品として、ひと息で約1,000個のシャボン玉ができる「忍者しゃぼん玉シリーズ」、ドラえもんやアンパンマンをデザインにあしらったキャラクター製品を開発。他にも「パワフルシャボン玉シリーズ」では人間が入れるほどの大きさになるものもあります。

さらに、子どもが大好きな粘土を膨らませる「光るジェルバルーン」や「光るふうせんねん土」、また海外製の電動式シャボン玉製造機向けの補充液も販売。これは、実験してみると付属されている海外製のシャボン玉液よりもシャボン玉の量が約3倍、通常の小玉専用液と比較しても約1.5倍という結果が出ています。

今年は、当社設立からちょうど65周年となります。当社は国内を代表する「シャボン玉メーカー」として、独自のアイデアと開発力を持ち、これからも新しい製品や新しい販路を見出していきたいと考えています。また、これまで大切にしてきた「品質・性能・安全性」をさらに追求し、当社のシャボン玉を通して少しでも心を豊かにしてもらい、「遊んで楽しかったな」と毎日の生活を楽しんでいただけたらという努めてまいります。

Sustainable
Kyushu



1.すべて国内製の容器は容量ごとに色が異なる
 /2.3.4.容器にシャボン玉液を充填する様子/
 5.右から友田社長、福井支店長(福岡銀行)

有限会社 友田商会

- 本社所在地：〒812-0043 福岡市博多区堅粕3-19-1
- 電話番号：092-411-6504
- 事業内容：しゃぼん玉製造卸、幼児玩具・景品現具製造卸

